

公 民 [倫理] (100 点 50 分)

2016年5月19日(木) 1限 実施

前期① 考査

千葉県立長生高等学校 第3学年 全組

Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように5桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3年D組1番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第1問 下の問い合わせ (問1~問5) に答えよ。 (配点 26)

ギリシア神話はその内容に従って、普通神々についての神話と英雄についての物語とに二分される。幾種かの宇宙生成神話が伝えられるうちで、もっとも規範的なのは [1] が『神統記』で語るもので、ここでは神々も宇宙も生まれてくるものと構想される。最初は混沌を意味する [2] が、ついで [3] とその奥底なるタルタロスが、さらにいわばいっさいの生成の根源力としてエロスが生じた。混沌からは形なきものどものエレボス(闇)とニュクス(夜)とが、そして夜から輝く上天の気アイテルとヘメラ(昼)とが生まれる。他方、大地はひとりでウラノス(天)を生む。大地と天とにより両性生殖が始まり、すべての神々と人間との元初となる。すなわち大地は天に添寝してクロノスを含む6人の男神と6人の女神とを生む。これがティタン神族である。ところが天は子を憎み、大地の奥處に隠して出ることを許さない。苦悶した大地は末子クロノスに勧め、鎌で天父の男根を切断せしめた。肉片は海に落ち、まわりに泡が生じ、そのただなかから愛の女神 [4] が生まれた。これは神話にしばしば見られる語源俗解だが、海からのこの女神の誕生はその本性にもふさわしい。ウラノスの呪いとともに天界の主権は子クロノスに移る。彼は姉レアを妻としてヘラを含む3人の女神と3男神ハデス、[5]、[6] を生む。彼らはいずれもオリュンポス十二神に数えられる。ところがクロノスも霸権が子によって奪われることを恐れ、次々と子どもを自分の体内に呑みこむ。だが母の計略によりひとり難をまぬがれた [6] は成長し、クロノスの腹の中から兄姉を吐き出させ、ここに父の一族ティタンたちとの戦争が開始される。[6] は苦戦の末ティタン族を天界から追放し、霸権を確立することができた。世界の3分割つまり [6] は天、[5] が海、ハデスが冥界を支配領域と決定したのはこの時のことであろう。

問1 文章中の空欄 [1] ~ [6] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①~④のうちから一つずつ選べ。

- [1] [① ヘロドトス ② ホメロス
③ トウキュディデス ④ ヘシオドス]

- [2] [① シノイキスモス ② コスモス
③ カオス ④ ヘルメス]

- [3] [① アテナ ② ガイア
③ ソフィア ④ アフロディテ]

- [4] [① アテナ ② ガイア
③ ソフィア ④ アフロディテ]

- [5] [① アポロン ② ポセイドン
③ アレス ④ ゼウス]

- [6] [] ① アポロン ② ポセイドン
 ③ アレス ④ ゼウス

トロヤ戦争とは、古代ギリシア人の伝承に語られているギリシアとトロヤとの戦争。この戦争に取材する英雄叙事詩で現在われわれに伝わるのは、[7] の作とされる『イリアス』および『オデュッセイア』の二編のみであるが、アルカイック期以前には多種多様の英雄叙事詩に歌われていたと思われる。『イリアス』はトロヤ戦争 10 年目のできごとに、『オデュッセイア』はトロヤ陥落後のオデュッセウスの漂流にそれぞれ主題を限定しており、いずれもトロヤ戦争の経過全体を取り上げているわけではない。

戦争の原因は、英雄 [8] の両親となるペレウスと女神テティスの結婚の席に、不和(エリス)女神が招待されなかったことにある。不和女神は、腹いせに「もっとも美しい者へ」と記した黄金のリンゴを婚礼の席に投げ込み、ヘラ女神とアテナ女神、アフロディテ女神が美を競うこととなり、その審判人に選ばれたのがトロヤの王子の [9] であった。[9] は、ギリシア第一の美女を与えることを約束したアフロディテに黄金のリンゴを与え、この女神の加護のもとにスバルタ王メネラオスの妃ヘレネをトロヤに誘拐することに成功した。妻を奪われたメネラオスは、兄のミケーネ王アガメムノンを動かしてギリシア諸国の王にトロヤ遠征の檄を飛ばさせ、やがて連合船隊はボイオティアのアウリスに集結し、トロヤに向かう。堅固な城壁で守られたトロヤは簡単には陥落せず、戦いは 10 年目に入った。このとき、総帥のアガメムノンと英雄 [8] との間に不和が生じ、ギリシア軍は苦戦に陥った。親友パトロクロスを戦死させた [8] は、復讐の鬼となって戦場に赴き、敵将を討ち取ったが、のちに自分も戦死した。トロヤ側優勢となったとき、イタケ王オデュッセウスの案出した、巨大な [10] の中にギリシア兵を忍ばせて城内に引き入れるという計略が功を奏し、ギリシア側の逆転勝ちとなった。

問 2 文章中の空欄 [7] ~ [10] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①~④のうちから一つずつ選べ。

- [7] [] ① ヘロドトス ② ペリクレス
 ③ ホメロス ④ ヘシオドス

- [8] [] ① アキレウス ② ミノス
 ③ ヘラクレス ④ テセウス

- [9] [] ① パリス ② エディップス
 ③ ヘクトル ④ シュリーマン

- [10] [] ① 灯台 ② 木馬
 ③ アテナ神像 ④ 戰車

ギリシア神話についての解釈もギリシア自身に始まる。(a)前6世紀の自然哲学者クセノファネスはその擬人観を批判したし、同じ世紀のテアゲネスは神々を擬人化された自然力または倫理的原理とみなすことで神々の栄誉を救おうとした。今一つの有力な神話の合理的解釈である(b)エウヘメリズムもヘレニズム時代のギリシア人エウヘメロスに由来する。神々といつても、もとは有力な事績を残した人物にすぎなかつたとするこのエウヘメリズムは、後のキリスト教教父たちが異教の神々をおとしめるかっこうの武器となつたものであった。神話研究の萌芽はこのようにギリシア自体にあって、以来長い歴史のうちにさまざまな理論が提示されてきたが、神話を神話の地平で、つまり宗教的な現象として取り扱う視点が開かれてきたのはやっと19世紀のロマン主義の時代、とりわけシェリングにおいてのことであった。

問3 下線部(a)に関して、クセノファネスのギリシア神話批判として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[11]

- ① ギリシア神話の神々は、本当の姿は神ではなくちっぽけな人間にすぎない。
- ② ギリシア神話の神々は、あさましい人間の姿を神々にあてはめたにすぎない。
- ③ ギリシア神話の神々は、人が考え出した完全な神の理想の姿に過ぎない。
- ④ ギリシア神話の神々は、完全ではないがゆえに本当の神ではない。

問4 下線部(b)に関して、エウヘメリズムの具体的な例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[12]

- ① 源義経がモンゴルに渡ってチンギス・ハーンになったという伝承がある。
- ② 人の子として生まれたイエスは、神の子であると同時に神でもある。
- ③ 徳川家康はその死後、祀られて東照権現という神となった。
- ④ 戦前の日本では天皇は現人神であると考えられていた。

問5 下の英語の説明に当てはまる英単語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[13]

- 1 an idea or story that many people believe, but which is not true. [= fallacy]
 - 2 an ancient story, especially one invented in order to explain natural or historical events.
- ① philosophy ② myth ③ logic ④ physics

第2問 次の文章を読み、下の問い合わせ（問1～問6）に答えよ。（配点 20）

ギリシアにおける哲学的思索は、先進文明国であるアジアの諸国との接触が密接であったイオニア植民市において、前6世紀のころに始まった。この時代の philosophers は、存在する事物の原理を、生成し消滅する存在者がそこから成り立っている万物の根源に求め、これを[14]とよんだ。これによって事物は、われわれに隠された神秘な由来に基づいて、「神々からのもの」として理解されること（神学的・神秘的説明）をやめ、われわれにとって明白な存在においてその根拠を開示されるもの（哲学的・合理的説明）となった。[15]はこの万物の「成り立ち」である自然を「水」であるとし、[16]は「無限なもの」、[17]は「空気」とした。

これらは、万物がそこから生まれ出るという意味で万物の「生まれ」なのであった。

これらの人々は(a)ミレトスの人なので、ミレトス派とよばれる。(b)ピタゴラス派では、万物の「成り立ち」は事物を構成する形式的な原理である数に求められる。世界は相反する諸性質の間に生まれる数的な調和である。(c)ヘラクレイトスは、生成し消滅する存在者をその生成し消滅する過程の全体においてとらえようとした。それゆえ、存在者を成り立たせるものは同時にその反対の非存在でもあり、世界は相拮抗する相反者の間に成り立つ動的な調和としてとらえられる。これが世界の(d)「ロゴス」である。

(e)エレアのパルメニデスは、これまでの哲学者のように存在を感覚において現象するものとして把握するのをやめ、感覚的な現象の背後にその根拠として[18]が理性に対して示現していることを明らかにした。これこそが存在の真実性であり、感覚的現象は虚像にすぎない。ここに、感覚に現象する生成・消滅する事物の「成り立ち」としての「自然」を求めた最初の哲学者たち、すなわち自然哲学者（フィシオロゴイ physiologoi）とよばれる人々の思索は頓挫し、哲学は新たな端緒を求める。

問1 文章中の空欄[14]～[18]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [14] [] ① プシュケー ② アルケー
 ③ ピュシス ④ アレテー

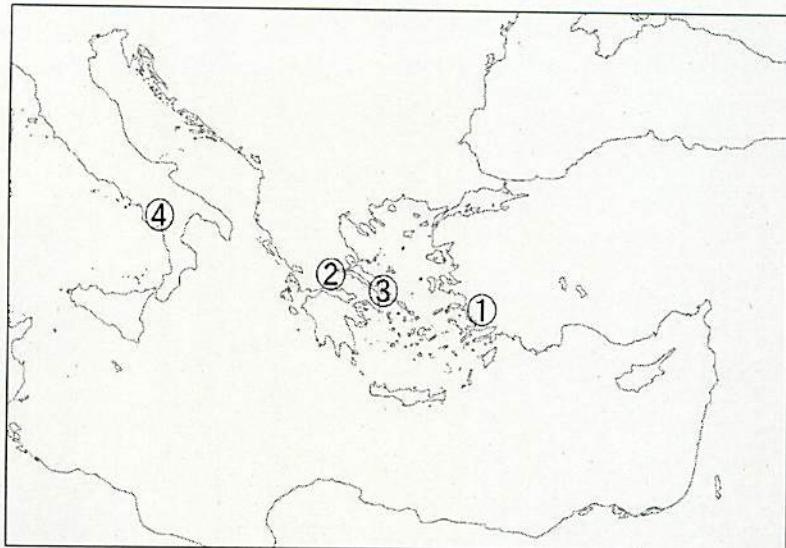
- [15] [] ① タレス ② アナクシマンドロス
 ③ アナクサゴラス ④ アナクシメネス

- [16] [] ① タレス ② アナクシマンドロス
 ③ アナクサゴラス ④ アナクシメネス

- [17] [] ① タレス ② アナクシマンドロス
 ③ アナクサゴラス ④ アナクシメネス

- [18] [] ① 不変不動な存在 ② 生成変化する存在
 ③ 不変不動な神 ④ 生成変化する神

問2 下線部(a)に関して、ミレトスの位置にあたるものを、右の地図中の①～④のうちから一つ選べ。[19]



問3 下線部(b)に関して、ピュタゴラスについての説明として適當でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[20]

- ① 万物は数の存在分節機能によって秩序立てられ、存在の各層には同一の数の類比関係が働いているということを説いた。
- ② 魂は元来、不死すなわち神的な存在であるが、無知ゆえにみずからを汚し、その罪をつぐなうために肉体という墓に埋葬されていると考えた。
- ③ 輪廻転生の苦しみから解放されるには魂は知恵を求め、それによって本来の純粹存在に立ち帰らなければならないと考えた。
- ④ 重力のもとで静止した流体中に置かれた物体は、そのおしおけた流体の重さに等しい浮力を受けて軽くなるという原理をあきらかにした。

問4 下線部(c)に関して、ヘラクレイトスの言葉として適當でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[21]

- ① 万物の内にはすべての種子がある
- ② 万物は流転する
- ③ 万物の根源は永遠の火である
- ④ 同じ川に2度入ることはできない

問5 下線部(d)に関して、ロゴスというギリシア語の意味として適當でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[22]

- ① 論理
- ② 理性
- ③ 言葉
- ④ 精神

問6 下線部(e)に関して、エレアの位置にあたるものを、上の地図中の①～④のうちから一つ選べ。[23]

第3問 次の文章を読み、下の問い合わせ（問1～問2）に答えよ。（配点 14）

[24] の論法は、たとえば、「真実在は一である」とする説にたいして「存在は多である」と主張する相手に、つぎのような仕方で論駁する例において典型的に示される。もし多であるなら、それらはどれほど多くても、あるだけ、ちょうどそれだけあって、それよりも少なくもないから、その数は全体として一定“有限”である。他方しかし、それら多なる存在と存在との間には別の存在があるはずであり（もし何もないなら、それらは二つではなく一つのものだということになる）、同じことはいくらでも先へ考えていくことができるから、その数は [25] となる。したがって、もし存在が多であるなら、その数は有限にしてかつ [25] であるという矛盾した帰結が生ずる。ゆえにこの前提は誤っている。この種の論法はこのほかにも、〈動〉にたいする論駁として、俊足のアキレウスは亀を追い越すことはできないとする〈アキレウス〉、飛ぶ矢は静止しているとする〈矢〉の論などがあるが、これらは〈[24] のパラドックス〉として知られている

ディオゲネス・ラエルティオスの記載した [26] の伝記は華やかであり、死者をよみがえらせたとか、神としてあがめられるため火山エトナの火口に身を投げて死んだとかいう話までが伝えられている。ニーチェはこの伝記をもとにして [26] を「医師と魔術師、詩人と雄弁家、神と人、学者と芸術家、政治家と僧侶」のいずれともきめかねる中間的、活動的人間としている。彼には二つの著作『自然について』と『浄め』があった。『自然について』は土 [27] 火風の四元素と、愛と憎という二つの力を中心にして展開する宇宙論である。愛は四元素を結合する力、憎は分離する力であるが、この二つの力の勢力の消長交代によって宇宙は四つの時期に区分されながら永遠に回帰する。

ディオゲネス・ラエルティオスの記録した著作目録によると、[28] の著作は原子論の基本理論、宇宙論、天文学、地理学、生理学、医学、感覚論、知識論、数学、磁気学、植物学、音楽理論、言語学、倫理学、農業、絵画、その他の領域をおおっていた。彼はアリストテレスにも匹敵すべき学問の世界のオールラウンド・プレーヤーであった。古人の伝えによると彼のニックネームは「知恵」であり、また人々が空しい業（わざ）にいそしむ姿をつねに笑ったので、「笑い人」とも呼ばれたと伝えられる。だがその著作はすべて散逸し、現在は断片を残すのみである。[28] の原子論は不生不滅の極微のアトムは無数に存在するが、そのためにはアトム相互の間を区切る [29] がどうしても存在しなければならないことになる。彼はこの [29] を〈ウーデン ouden（無）〉と呼びあらため、この語から最初のシラブル〈ウー ou=not〉を取り除いた〈デン den（有、有るもの）〉という語を造語して、それをアトムの新しい呼び名として主張した。〈無は有と同様に存在する〉（断片 156）。この断片は [29] の存在を鮮明に印象づけようとする言葉だが、新造語の案出ということも天才の一つのしるしであろう。

問1 文章中の空欄 [24] ～ [29] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [24]

① デモクリトス	② タレス
③ パルメニデス	④ ゼノン

- [25]

① 無限	② 無数
③ 最大	④ 不可分

- [26] [] ① エピキュロス ② ダイダロス
 ③ エンペドクレス ④ アリストクレス

- [27] [] ① 数 ② 水
 ③ 月 ④ 太陽

- [28] [] ① エンペドクレス ② デモクリトス
 ③ ゼノン ④ プロティノス

- [29] [] ① アレティー ② ミュトス
 ③ アルケー ④ ケノン

問2 自然哲学が小アジアの植民都市で始まった理由として適當でないものを次の①～④のうちから一つ選べ。[30]

- ① 地中海交易による商業の発達によって、オリエント文明の知的刺激を受けた。
- ② 地中海交易による商業の発達によって、教育機関が設立された。
- ③ 地中海交易による商業の発達によって、富裕市民にスコレ（暇）が生まれた。
- ④ 地中海交易による商業の発達によって、貨幣経済が浸透し抽象的思考が発達した。

第4問 次の文章を読み、下の問い合わせ（問1～問2）に答えよ。（配点 12）

民主政のアテネでは、議会や法廷での弁論に優れていることが、政界での、つまり市民としての成功を意味した。ソフィストたちは時代の要求にこたえ、多額の謝礼と引き換えに富家の子弟に〔31〕を授けた。講義は作文修辞の法のみならず、法律道德論、文明論などの実質的思想にも及んだ。彼らが徹底的な形で示した言論の魅力は知的な青年たちをとりこにしたが、やがて保守的市民から過激な危険思想家と目されるようになる。ソクラテスの受難も、ソフィストと混同されて市民の反感を買ったことが一因であった。

ソフィストのうち、プロタゴラスの「人間尺度命題」は人間中心主義、〔32〕主義、相対主義の表明とみられ、(a)ゴルギアスは知識否定論として、またトラシュマコスの「正義とは強者の利益なり」という説や、アンティフォン、ヒッピアスらの〔33〕と自然（ピュシス）の分離論は法や慣習、道徳に対する挑戦とみなすことができる。

哲学者〔34〕はソフィストたちの名を冠した一連の作品を著し、ソクラテスと真理のために、これらの思想と対決しその虚偽を暴いた。個人と国家のために善を図り言論と行為とにもっとも有能有力な者となる道を教授するというのがソフィストたちの自称であったが、彼らが実際に教えたものは、善について無知でありながら優れた人間であると思わせる方法であり、事の真偽や正邪を問わず、ただ大衆を扇動して論敵に勝つための技術であった。

ソフィストの語はこうして、〔35〕の徒を意味することとなり〔35〕学派ともいわれた。ただし、事態の裏面をみると、ソクラテスと〔34〕の哲学はソフィストたちの恐るべき論理から生まれたとも考えられ、その意味で彼らの哲学史上の意義がしばしば再評価される。

問1 文章中の空欄〔31〕～〔35〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [31] [] ① 弁論術 ② 学問
③ 学習法 ④ 問答法

- [32] [] ① 客観 ② 主観
③ 無常観 ④ 絶対

- [33] [] ① ミュトス ② ソフィア
③ ロゴス ④ ノモス

- [34] [] ① アリストテレス ② ソフォクレス
③ プラトン ④ ディオゲネス

- [35] [] ① 論理 ② 詭弁
③ 愛知 ④ 弁論

問2 下線部(a)に関して、ゴルギアスの言葉として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。〔36〕

- ① 何ものも有らぬ、有るにしても何ものも知り得ない。
② 純粹な美そのもの、善そのもの、大そのもの、すべてそのようなものがある。
③ 神は存在するか、しないか、あるいはどのような姿であるかも知ることができない。
④ 戰いは万物の父であり、万物の王である。

第5問 次の文章を読み、下の問い合わせ（問1～問5）に答えよ。（配点 10）

ソクラテスは書物を書かなかった。その周囲にあった何人かの人が彼について書き、われわれはこれによって彼を知るが、それに関して (a)「ソクラテス問題」という問題がある。

若いころのことについて、確かなことは知らない。われわれに親しいのは、年配のソクラテスがアテネの街角や体操場で美しい青少年たちを相手に、また町の有力な人々を相手に、(b)人を幸福にするものは何か、善いものは何か、勇気とは何かと問い合わせている姿である。これらの問答の主題は、多くこのように実践に関するものであった。そして、この問答はいつも「まだそれはわからない」という無知の告白を問答者が相互に認め合うことで終わった。この際、相手は、ソクラテスがそういうながらも実は自分では知っているという印象をもつことが多く、そこで自己の無知を露呈された人々は、ある場合、(c)ソクラテスのやり口の陰険さに怒った。

しかし、ソクラテスの真意は、各人が自己の存在がそれによって意味づけられている究極の根拠についての無知を悟り、これを尋ねることをなによりもたいせつなことと知るように促すことにある。もとより、ソクラテスがこの根拠を知るというのではない。むしろ、究極の根拠についての無知を悟り、それへの問い合わせを通じて (d)この「行き詰まり」（アポリア）のうちにとどまるところにソクラテスの (e)哲学がある。それは根源から問い合わせられるものとしての場に、己を置くことであり、このような方法で己が全体として根源から照らされることである。

問1 下線部(a)に関して、ソクラテス問題についての説明として、最も適当なものを、下の

①～④のうちから一つ選べ。[37]

- ① ソクラテスが実在したかどうかがわからないという問題
- ② ソクラテスの生涯や思想を他人の著作からどのように復元できるのかという問題
- ③ ソクラテスの思想が本当に当時の人びとに受け入れられていたのかという問題
- ④ ソクラテスの思想が弟子たちにどのような影響を与えたのかという問題

問2 下線部(b)に関して、ソクラテスのこの行為を表すギリシア語として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[38]

- ① レトリケ
- ② ディアレクティケ
- ③ テクネ
- ④ ヒッポス

問3 下線部(c)に関して、ソクラテスこの行為をあらわすギリシア語として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[39]

- ① ミメーシス
- ② エイロネイア
- ③ アポカリプシス
- ④ フモール

問4 下線部(d)に関して、「行き詰まり」(アポリア)のうちにとどまるということについての説明として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[40]

- ① 人間が絶対確実な知に到達するためには、常に哲学を続けることによって、知識を増やし続けることが必要であるということ。
- ② 人間が絶対確実な知に到達するためには、知を求め続けることをやめることによって、逆に知が自分に訪れるのを待つべきだということ。
- ③ 人間は絶対確実な知には到達することはできないが、それでも知を求め続けることが魂への配慮であるということ。
- ④ 人間は絶対確実な知には到達することはできないが、神の力を借りて真の知を自分のものにすることができるということ。

問5 下線部(e)に関して、ギリシア語の語源にさかのぼった哲学（フィロソフィア）のもともとの意味として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[41]

- ① 原理を探究する
- ② 自然に生まれる
- ③ 眺める
- ④ 知を愛する

第6問 次の文章を読み、下の問い合わせ（問1～問4）に答えよ。（配点 18）

ソクラテスが善悪についての知を何より重視した背後には、つぎのような考えがある。〔42〕をすぐれたよいものにするためには、善悪についての知が必要であるということはもちろんあるが、逆にまた、善悪についての知を実現すれば〔42〕はすぐれたよいものとなる、つまり、(a)徳は実現されるという考え方である。この「徳は知である」とする知徳合一の立場からすれば、悪と知りつつ悪をなす者はいない、悪をなすのはまだ本当の意味でそれが悪だということを知らないからだ、ということになる。

ところですでにみたように、人間に幸福がもたらされるのは、その〔42〕のよさによってであった。すなわち、徳あることが幸福であることであった。したがって、ソクラテスにおいて、幸福は徳に、徳は知に帰着し、三者は一致する。わたしたちはこの考え方のうちに、ソクラテスにおける〔43〕主義（知識・理性を重視する立場）を、さらにはギリシア思想一般に通ずる〔43〕主義を見ることができる。

アテネがスパルタに敗れてから5年後、不安定な政局の中で、ソクラテスはソフィストや一部の政治家の反感を招き、裁判にかけられた。「〔A〕」というのが、その理由であった。彼は告発が不当であることを主張したが、ついに死刑を宣告された。友人たちの中には逃亡をすすめる者もいたが、彼はそれは国法にそむき、不正を犯すことであるとしてこれを拒否、彼の日ごろの原則であった善く生きること、正しく生きることをつらぬいて死んでいった。

問1 文章中の空欄〔42〕～〔43〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [42] [① アントローポス ② プシュケー
 ③ アルケー ④ プラクシス]

- [43] [① 主知 ② 主意
 ③ 懐疑 ④ 相対]

問2 下線部(a)に関して、徳（卓越性）を意味するギリシア語として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[44]

- ① ディアレクティケ ② カロカガティア ③ カロース ④ アレテー

問3 文中の空欄〔A〕に入る文として、最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[45]

- ① 魂が滅びると訴え、輪廻転生を認めた。
② 国家の認める神々を認めず、青年たちに害毒を流した
③ 知者たちを侮辱し、民主政治に反対した
④ 他者の不正を糾弾し、自らは不正を行った。

問4 次の〔46〕～〔50〕を意味するギリシア語として、最も適当なものを、下の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

〔46〕「臆見」「思い込み」を意味するギリシア語。

〔47〕「見ること」「観想」を意味するギリシア語の名詞。法則、理論はこの語を英語化したもの。ちなみに英語の *theatre* も「見るための場所」、すなわち劇場を意味するギリシア語に由来する。

〔48〕職業教師。本来「何らかの技芸に秀でた人、達人」、または七賢人のような「知恵のある者」を意味するギリシア語。

〔49〕ライオンの身体と人間の顔を持った神聖な存在あるいは怪物。

〔50〕知恵、学芸、工芸、戦争をつかさどる女神。

- ① ΣΟΦΙΣΤΗΣ ② ΣΦΙΝΞ ③ ΔΟΞΑ ④ ΜΙΝΩΤΑΥΡΟΣ
⑤ ΘΕΩΡΙΑ ⑥ ΑΘΗΝΑ ⑦ ΑΛΕΞΑΝΔΡΟΣ ⑧ ΖΕΤΣ

これで問題は終わりです。